

産業建設委員会 所管事務調査報告書

令和3年8月～令和4年11月

・産業振興について

目次

・ はじめに	1
・ 調査項目選定の経緯	2
・ 調査の経過	3
・ 委員から出された主な意見・提案	7
・ 提言・まとめ	8

■ はじめに

常任委員会は、その部門に属する事務に関して調査を行う権限を有している。

所管事務調査は市から提案された予算案や条例案などの議案を審査するのとは異なり、常任委員会が自主的にテーマを設定し、調査を行うものである。

本委員会では、令和3年8月から令和4年11月にかけて、「産業振興」について調査を行った。

調査委員

委員長 井手畑 隆 政

副委員長 橋 口 晶

委 員 藤 原 広

〃 山 上 文 恵

〃 田 中 みわ子

〃 中 原 明 夫

〃 定 森 健次郎

〃 渡 辺 一 照

■ 調査項目選定の経緯

本市の市街地では、商店街などの商業地域の活力低下が進む中、産業の中心を担う中小規模企業の活性化が喫緊の課題となっている。こうした中、本市ではこれまで、「呉市中小企業・小規模企業振興基本条例」の制定や、「呉市ビジネスモデル転換支援事業」、「リノベーションまちづくり事業」などの取組を継続的に行ってきたが、大規模事業所の休止問題や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、元のにぎわいを取り戻すには至っておらず、新たな事業所の立地も進んでいないため、活気が失われた状況が続いている。また、求人・求職の状況に目を向けてみると、市内高校の卒業者の市内企業への就職率は6割程度で、市内大学の卒業者はわずか1割となっており、市内には魅力的な企業が多数存在しているにもかかわらず、就職希望者に選ばれていないのが現状である。

そのようなことから、産業振興に関する広範なテーマを調査研究することを目的として、本委員会では「産業振興について」を所管事務調査のテーマとすることとした。

■ 調査の経過

令和3年8月26日

委員間討議（調査項目の選定）

委員それぞれが調査項目について提案し、協議を経て、「産業振興」を調査項目とすることに決定した。

令和3年11月16日

委員間討議（課題や問題点等の確認）

調査項目について、現状における課題や問題点等を確認するため、呉市の現状、課題、今後の方向性など、当局から呉市の取組状況について説明を受けた。

令和3年11月26日

委員間討議（論点の整理）

当局からの説明を受けて、今後の所管事務調査をより効果的に進めていくため、呉市の持つ課題や問題点を絞り込むために論点の整理を行い、「求人・求職・雇用にフォーカスした現状把握」、「中小企業・小規模企業基本条例の検証」の2点を論点として、今後の所管事務調査を進めていくことに決定した。

令和3年12月15日

委員間討議（市内視察先の検討）

広島県中小企業同友会呉支部と意見交換会を行うため、市内視察を行うことに決定した。（後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、オンラインでの意見交換会に変更）

令和4年2月4日

広島県中小企業同友会呉支部との意見交換会

広島県中小企業同友会呉支部とZOOMを活用したオンラインでの意見交換会を行い、市内の求人・求職情報について、市内で会社を経営する経営者から直に呉市の情報を聞き取るとともに、必要とされている支援策などについても意見交換を行った。



令和4年3月9日

委員間討議（広島県中小企業同友会呉支部との意見交換会の振り返り）

オンラインで開催した，広島県中小企業同友会呉支部との意見交換会について，各委員がそれぞれの思いや気づきなどを述べ，意見交換を行った。

令和4年6月2日

市内3大学の就職担当者との意見交換会

正副委員長が，呉工業高等専門学校，広島国際大学，広島文化学園大学の市内3大学の就職担当者と意見交換を行い，学生がどの程度呉市内の企業に進学しているのか，学生が就職に際して求めている条件はどのようなものかなどについて聞き取りを行った。

令和4年6月22日

①委員間討議（県外視察に向けて）

②市内3大学の就職担当者との意見交換会

産業振興に関する取組の先進事例を研究するため，令和4年6月29日から7月1日にかけて視察を行うことになった，埼玉県川越市，神奈川県横浜市，大阪府堺市について，各市の取組の概要を委員長が説明した。

また，正副委員長で実施した市内3大学の就職担当者との意見交換会について，委員長から，意見交換会を通して感じた気づきや，特筆すべき意見について委員に報告を行った。

令和4年6月29日～7月1日

県外視察

【埼玉県川越市】

川越市は首都圏に近く，人口増加が続いているが，歴史的・文化的に貴重な町並みも市内中心部に残されており，ベッドタウンとしての役割も持ちつつ，歴史的資源を活用した観光業も盛んに行われている。中心市街地の北部は，重要的建造物群保存地区にも指定されている蔵造りの町並みを中心とした観光地域，南部は3つの鉄道駅や，大型商業店舗を備えた商業の集積地域，中部は南北地域を結ぶ結節点とみなされている。



川越市では，市内中心部の南部と北部の結節点となる中部地域のにぎわいが乏しく，市街地全体の活性化に支障が生じていると考えたことから，計画期間は定めず，平成11年に

「川越市中心市街地活性化基本計画」を策定した。その後、計画期間を定めないことの弊害を考慮し、平成21年に改めて計画を策定し直し、平成27年に再度、計画の策定を行った。そして、令和2年3月をもって計画期間を満了し、計画の目的は達成したと判断したため、再度の計画の策定は行わなかったものである。

計画に伴う事業の実施の代表例として、川越市産業観光館「小江戸蔵里」が挙げられる。小江戸蔵里は中心市街地中部地域にあった酒蔵跡地を市が買い取り、改装した観光・商業施設であり、特産品等の販売を行うなど、にぎわいを見せている。

また、小江戸蔵里は北部と南部を結ぶ結節点に存在しているが、これまで、南部から北部への観光客の移動にはバスなどの公共交通機関が利用されており、中部に立ち寄る観光客が少ないという課題があった。しかし、小江戸蔵里の開館によって、中部に立ち寄る観光客が非常に増えている。

【神奈川県横浜市】

横浜市では、市内に約7万2,000社存在する企業のうち、99.5%が中小企業であり、市内経済に大きな影響力を持っている。これら中小企業の振興に関する施策を総合的に推進し、市内経済の発展及び市民生活の向上に寄与することを目的として、平成22年1月に横浜市中心企業振興基本条例を議員提案で制定し、中小企業の振興を進めている。



本条例の最大の特徴は、1年に一度、議会に対して事業の進捗状況の報告義務が明記されており、庁内の全部局で中小企業振興の重要性について、認識の共有を進めているところである。実際に、中小企業を活用する意識は向上しており、市内業者の活用実績は上昇傾向が続いている。

また、横浜市ではIoTビジネスの支援を通じて、新たなビジネスモデルを創出することなどを目的とする、I・T・O・P横浜という事業にも取り組んでおり、IoTに関する様々な実証実験に対して、実施場所の提供や、官公庁への橋渡しの協力、補助金の交付など、事業者がチャレンジしやすい環境となるよう積極的に取組を行っている。

具体的には、会話の音声をリアルタイムに認識し、アクリル板などに貼付したスクリーンに字幕を表示するシステムの実証実験の実験場所として、横浜市中区役所の窓口を提供することや、市内商店街でIoTの実証実験を行いたいという提案に対して、商店街と事業者の橋渡しを行うなど、IoTの進展のために様々な方法で協力している。

【大阪府堺市】

堺市は平成14年に新事業創出支援を目的に、さかい新事業創造センターS-cubeを開所し、これまで150社以上の起業を支えてきた。



起業希望者が集まる要因として、施設は南海電鉄中百舌鳥駅から徒歩5分、関西国際空港まで電車で1時間程度の好立地に位置しており、隣接している産業振興センターから、必要に応じて専門的な支援を受けることも可能であることが考えられる。

入居可能期間は最大で3年間だが、その間は、補助金を活用することで周辺に比べて非常に安価にオフィスを借りることが可能である。また、経営支援のプロであるインキュベーション・マネージャーが施設に常駐しており、ビジネスプランの作成、経営、販路開拓、融資、補助金獲得など、企業からの様々な相談に対応することが可能となっている。

令和4年7月26日

市内視察

委員間討議（県外視察及び市内視察の振り返り）

Bit's呉への市内視察を行い、施設見学を行うとともに、施設の運営状況や、入居企業者がどのような事業を行っているのかなどについて説明を受けた。

その後、先般実施した県外視察及びBit's呉での市内視察について、各委員がそれぞれの思いや気づきなどを述べ、意見交換を行った。



令和4年10月24日

委員間討議（報告書の協議）

報告書の内容について協議した。

令和4年11月24日

委員間討議（報告書の確認）

正副委員長が取りまとめた報告書案について、内容の確認を行った。

■ 委員から出された主な意見・提案

1 求人・求職について

(1) 企業の知名度不足

- ・呉市内には様々な業種の企業が存在しているが、市内にどのような企業があるのかが就職希望者に正しく伝わっていない。企業側がPR活動をすることは当然のことながら、当局も主体的に市内企業の魅力発信に努めるべきだ。

2 呉市中小企業・小規模企業振興条例について

(1) 条例の報告義務

- ・横浜市のように、1年に一度は議会に対して、条例に基づく事業の進捗状況を報告するべきだ。議会がチェックすることで、条例の見直しにもつながり、より効果的な施策の推進を期待できる。

3 産業の活性化について

(1) 新たな観光スポットの整備

- ・市内のJR駅と観光スポット間をつなぐ結節点に、新たな観光スポットを整備するべきだ。例えば、JR呉駅と入船山記念館及び呉市立美術館の間にある青山クラブを整備することで、回遊性の向上が図られると思う。
- ・川越市は酒どころということで、観光施設内に日本酒を試飲することのできる自動販売機を設置していた。呉市にも全国的に有名な日本酒の銘柄は多くあるので、観光スポットに自動販売機を設置することを検討してもよいのではないか。

(2) 空き店舗の活用について

- ・空き店舗を市が借り上げた上で、新規出店希望者に安価で貸し出してもよいのではないか。呉市内は家賃が高いことが、新規出店者が少ない原因だと思う。

4 Bit's呉について

(1) 施設の改修

- ・施設が古く、時代に合わせた設備を導入するなど、改修を行うことも念頭に置くべきだ。

■ 提言・まとめ

本市では、商店街などの商業地域の活力低下が進む中、中小企業・小規模企業への支援などを通じて、産業振興を進めていく必要性があることから、呉市中小企業・小規模企業振興条例の制定や、リノベーションまちづくり事業などを行っているところであるが、産業建設委員会として、以下のとおり提言する。

- ① 求人・求職について、求職希望者に呉市の企業を選んでもらうことのできる環境づくりが必要である。市内にある大学の就職担当者との意見交換会でも、企業のPRが不足していることや、当局がこれまで以上に企業の魅力発信を行う必要があるという意見があった。選ぶのではなく、選ばれる企業が増えていくよう、企業の認知度向上に対して一層の努力が必要である。
- ② 呉市中小企業・小規模企業振興条例について、条例に基づいて様々な事業を行っていると思うが、議会に対して年に一度の報告を行っていただきたい。条例が適切に運用されているのかを議会がチェックすることで条例の見直しにもつながるし、報告書の作成を通じて、中小企業・小規模企業への業務発注の必要性を再度認識することができるなど、市職員の意識啓発にもつながると考えられる。
- ③ 観光振興と産業振興の連携について、呉市内には魅力的な観光スポットが多数存在し、多くの観光客が訪れているが、商業施設集積地域への誘客と回遊性の確保が不十分であるため、観光消費につながりにくい状況にある。例えば、商業施設集積地域に新たな観光施設を整備するなど観光客の回遊性向上を図り、観光振興が商業を中心とした市内産業の売上に寄与するような取組を進めていただきたい。
- ④ 呉市の特産品のPRについて、これまで以上に、宣伝に力を入れていただきたい。例えば、呉市では多くの日本酒の銘柄が製造されているが、これを観光客に知ってもらい購買意欲を喚起させるためにも、広島県酒造組合等と連携して、観光客の移動の拠点となるJR駅や商業施設集積地域などに、日本酒の飲み比べができる自動販売機を設置するなどの事業を展開していただきたい。



川越市の「小江戸蔵里」外観

⑤ Bit's呉について、呉市の今後の産業を担う企業を育てるためには、必要な施設であることから、企業側のニーズに合わせた設備の導入や、老朽化部分の補修・更新など、入居企業がクリエイティブな発想を発揮しやすい環境づくりに力を注いでいただきたい。

また、中小企業・小規模企業が新たな事業にチャレンジしやすい環境をつくるためにも、実証実験用地の提供や、官公庁へ申請する各種申請などの作成協力などについて、これまで以上に積極的に取り組んでいただきたい。



さかい新事業創造センターS-Cube内にある防音リモート会議室は、企業の要望によって設置された。